

第3回七尾市総合計画審議会会議録（要旨）

日 時	平成20年1月30日（水）13時～
会 場	ミナ・クル3F多目的会議室
委 員	<p>【出席】前山（正）会長、北原副会長、永江委員、長田委員、森下委員、神戸委員、石垣委員、濱委員、高島委員、関軒委員、藤井委員、前山（英）委員、坂口委員、津田委員、森山委員、谷内委員、岡田委員</p> <p>【欠席】浜浦委員、田中委員、川島委員</p>
事務局	村田企画政策部長、南企画経営課長、岡馬主幹、加地主任、嶋本主任、久水主任
内 容	
<p>○ 協議事項</p> <p>【協議第1号】七尾市を取り巻く社会動向について（継続協議）</p> <p>【協議第2号】七尾市のまちづくりの課題について（継続協議）</p> <p>（委員からの質問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 七尾市はいくら投資しているのか？七尾港に膨大な市費を投じて、本当に意味があるのか？ →（事務局）七尾港に関してはほとんど国と県の事業である。能越自動車道の開通を見据え、企業立地や客船就航など、七尾港をこれからどのような港にするのかが課題である。 <p>（委員からの意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい財政状況、少子高齢化の中、企業誘致が進まない現在において、第1次産業を育成するしかない。また、地震が必ずまた起こるという視点で防災を考えて行かなければならない。 ・ 協働や産業の振興は、社会動向ではない。例えば「地域産業・経済の振興」は「産業構造の変化」、「循環型社会への転換と自然との共生の取り組み」は「景観意識の高まり」などにすればどうか？社会動向として内容が異なる。 ・ 全国的に協働やっているから、七尾市もやるという感じになっている。修正してほしい。 ・ 文章にこだわらず、10年後各種団体がどうあるべきか出してもらったらどうか？ ・ 「緑豊かな山々から～豊かな環境に恵まれています」と書かれてあるが、環境の現状認識が楽観的過ぎないか？現在山が非常に荒れている。現実もっと厳しく見ていく必要があるのではないか？ ・ 行政と市民のパートナーシップの時代であるから、その中で町会や市民が何をしなければならぬのかといったような具体的な議論をして、総合計画を作り上げる必要がある。 	

- ・ 具体的な議論を審議会が行い、積み上げて整理するのを行政がすればいい。
- ・ 分野別で議論するような形にして、審議会を進めた方がいい。
- ・ 市民のニーズを考えたら全部ができるわけがない。いかに具体的に計画を実行するのが重要。肉付け（重点化）する部分を審議会で議論すればいい。
- ・ 前回の視察での現状認識と問題点を話せばどうか？

【協議第3号】七尾市の将来像について（継続協議）

【協議第4号】七尾市のまちづくりの基本方針について（継続協議）

（委員からの意見）

- ・ 「人が輝く交流体感都市」を市民全員が説明できるようになればいい。
- ・ 行政経営と協働がセットになっていると、財政が厳しいから市民がボランティアでやってくれと、意図がなくてもそう聞こえてくる。分けて考える必要がある。
- ・ 行政経営と協働は、まちづくりの基本方針のトップに来るものである。効率化、適正化の観点から事業評価などをやっていく行政経営、市民と行政との協働、市民同士の協働をバックアップする行政の3つぐらいの項目の下に、各施策に取り組むというまちづくりが来るものである。
- ・ 行政経営の効率化、適正化を図るためには、これだけ七尾市の財政状況は厳しいということをきっちり情報公開する必要がある。
- ・ 「創造と活力あふれるまちづくり」の創造とは何を指すのか？タイトルと内容が一致しない。
- ・ 生活環境（ゴミ問題）と自然環境（自然を守る）といっしょになっている。七尾市が観光や交流体感でやっていくには自然環境をどうしていくのかが、このまちの根幹に関わってくる。自然環境資源（温泉、食べ物）に非常に依存して生きている七尾市であるから、明確に意識して、またメリハリをつけて基本方針に打ち出す必要がある。
- ・ 地域間競争に勝つため、自分たちのまちづくり、七尾らしさをもっと示していけないといけない。
- ・ 将来像として、キャッチコピーとして「おいしい港町」を提案したい。食べ物がおいしい、そこに住んでいる人たちがいい思いをする、そんなまち。
- ・ 自分たちのまちは自分たちで作っていく、という実感を持った市民が多く住むまちが私の将来像の中にはある。そういった視点が計画に盛り込まれればいいと思う。
- ・ 市民の幸せは何によって構成されているのか抑えておかなければならない。自分たちの意見が、市の政策にきちんと反映されていくことができるまちを方針として盛り込まれればいい。
- ・ 港に上がると何も無いところ。港に上がるとシーフードが食べたいとなるような港、きれいな港（産業も）に、10年後は少しでもなってもらいたいというようなことを計画に入れてもらいたい。

【協議第5号】土地利用構想について（継続協議）

（委員からの質問）

- ・ 自然環境のゾーンがいるのか？
→ 国定公園法など個別法によってある程度守られている。この構想のゾーンは、それぞれの個別法のゾーンということではない。

(委員からの意見)

- ・ 地図に落として示してほしい。(個別法のゾーンも併せて)
- ・ 市街地ゾーンの考え方は、コンパクトシティの考え方とずれているのでは？
- ・ 病院、学校、行政機関など都市機能を集約させ、なるべく人を集めて住ませないと将来の自治体経営が成り立たなくなるとというのがコンパクトシティの考え。田鶴浜や中島などと中心市街地と同じように都市機能を集約させるという表現は、現在の財政状況ではありえないのでは？七尾駅から七尾港を結んだ市街地を中心に、公共交通機関を利用して歩いて暮らせるまちを目指す重要な位置づけとなると思うので、この中心市街地に関しては1つの重要な軸であるという表現をしていただきたい。また、その他の地域に関しては、公平性の観点からそれぞれの役割をきっちりと位置づけていく。
- ・ 小さい中心地というのが、限界集落も増えていく中で、田鶴浜、中島、能登島にもポイントとして必要だ。これは必ず病院などが各地域に必要だということではない。そういう都市機能が七尾の中心部にあるべきだという考えは大間違いだ。
- ・ これだけ財政状況が逼迫している中で、いろんな公共事業をやるのかといった議論をして、コンパクトシティのあり方を探求しないといけない。
- ・ ちゃんとしたメッセージが市民に届いていないから、未だに合併して3年経つが前と違うという声が聞こえるのでは。

【協議第6号】 将来人口について

(委員からの質問)

- ・ 合併後転出が増えているが、どこへ行っているのか？
→ 中能登町も含め各市町へ転出しているが、一番多いのは金沢市である。
- ・ 限界集落と言われる集落はどのくらいあるのか？
→ 現在、約7集落くらいある。10年後存続が危ない集落は4集落くらいと思われる。

(委員からの意見)

- ・ 人口減少率、高齢化率を色分けしてマップを作ってほしい。
- ・ 人口が増えている地域、人口が減っている地域の原因をきっちり把握して、施策に反映しなければならない。
- ・ サービスを提供する相手がどれくらいいるのか、収入(税収)がどれくらいあるのかを分けて考える必要がある。将来の行財政を考える上でのベースとなる人口と、サービスを提供する人口と。
- ・ 重点施策に定住促進が入っていない。
- ・ 将来人口は5万人だと思う。5万5千人で財政(収入)を見るのではなく、5万人で厳しく見る必要がある。期待としては大きく見てもいい。

【報告第6号】分野別計画の作成状況について

(委員からの意見)

- ・ 分野別計画を横軸とすれば、それを貫く縦軸にこれをやるという何かほしい（重点プロジェクト的に）。
- ・ 計画に出てくるのは全部大事だけど、この中でも重点項目を示してプライオリティ（優先順位）をつけていく必要がある。
- ・ H19.3の週間ダイヤモンドでは全国倒産度ランキングで七尾市は86位である。倒産寸前の財政状況だということを認識すべき。計画を作ってもできない。現在の財政状況をきっちり知らせてほしい。
- ・ お金がないというだけでは、暗い計画になってしまう。お金を使わずに、また、費用対効果の高い事業をやるという方針があってもいい。お金がなくてもこれだけできるんだということを基本にやっていきたい。そのためには市民もできることはやる、自分のまちは自分で作るという将来像につながる。